

# 資料 3

## 長崎県内の子宮頸がん検診の実績について

〔 地域保健・健康増進事業報告(厚労省)  
2023.03. 公表値より 〕

2024.1.17  
長崎県保健医療対策協議会  
がん対策部会子宮がん委員会

# ▶ 1.子宮頸がん検診受診率の状況

▶ 地域保健・健康増進事業報告(厚労省)公表値によると、令和3年度(長崎県)は 17.6 %で、全国平均15.4 %を上回り、全国13位。

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
全国	23.5	31.1	32.0	23.3	16.4	16.3	16.0	15.7	15.2	15.4
長崎	29.0	39.4	41.4	33.7	18.3	19.2	18.4	18.7	18.1	17.6

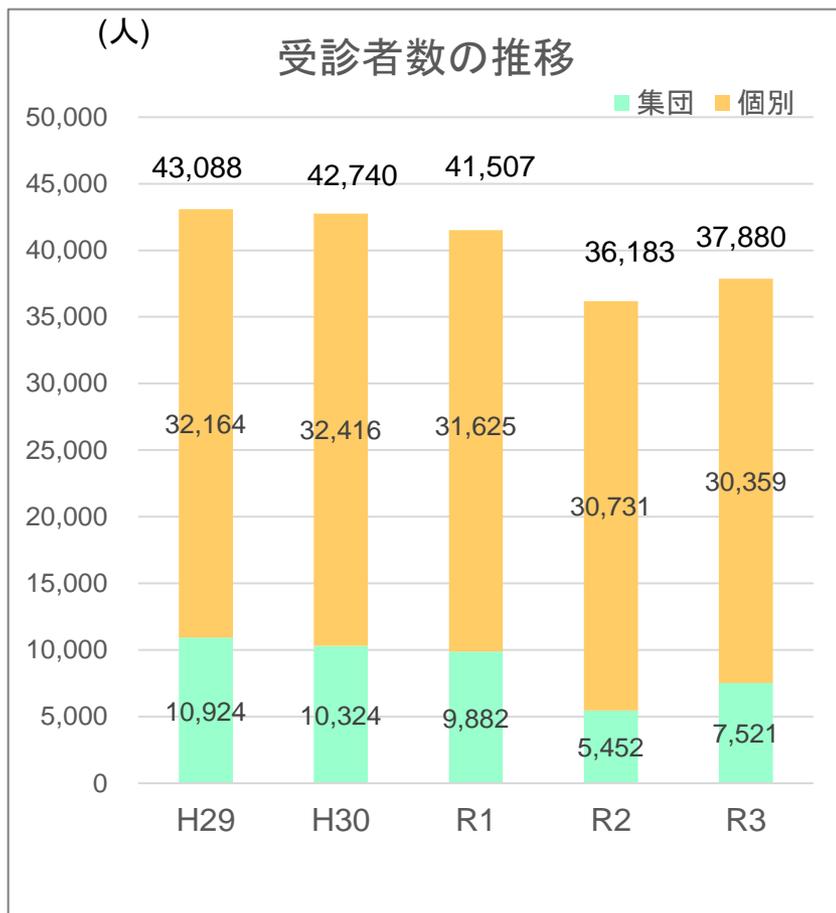
算出年齢: 20歳以上  
対象者: 20~69歳  
「就業者数」を除外しない

※算出年齢、対象者の計上方法が年度によって変更されているので、  
H27年度以前の経年的な比較はできない。  
H28からは同じ条件で算出されている。

## ▶ 2. 子宮頸がん検診受診者数と受診率（20～69歳）

### 1) 受診者数の推移

- ▶ 受診者数は、年々減少傾向。  
R2年度に大きく減少し、R3年度に若干増加したものの、R1年度までは回復していない。



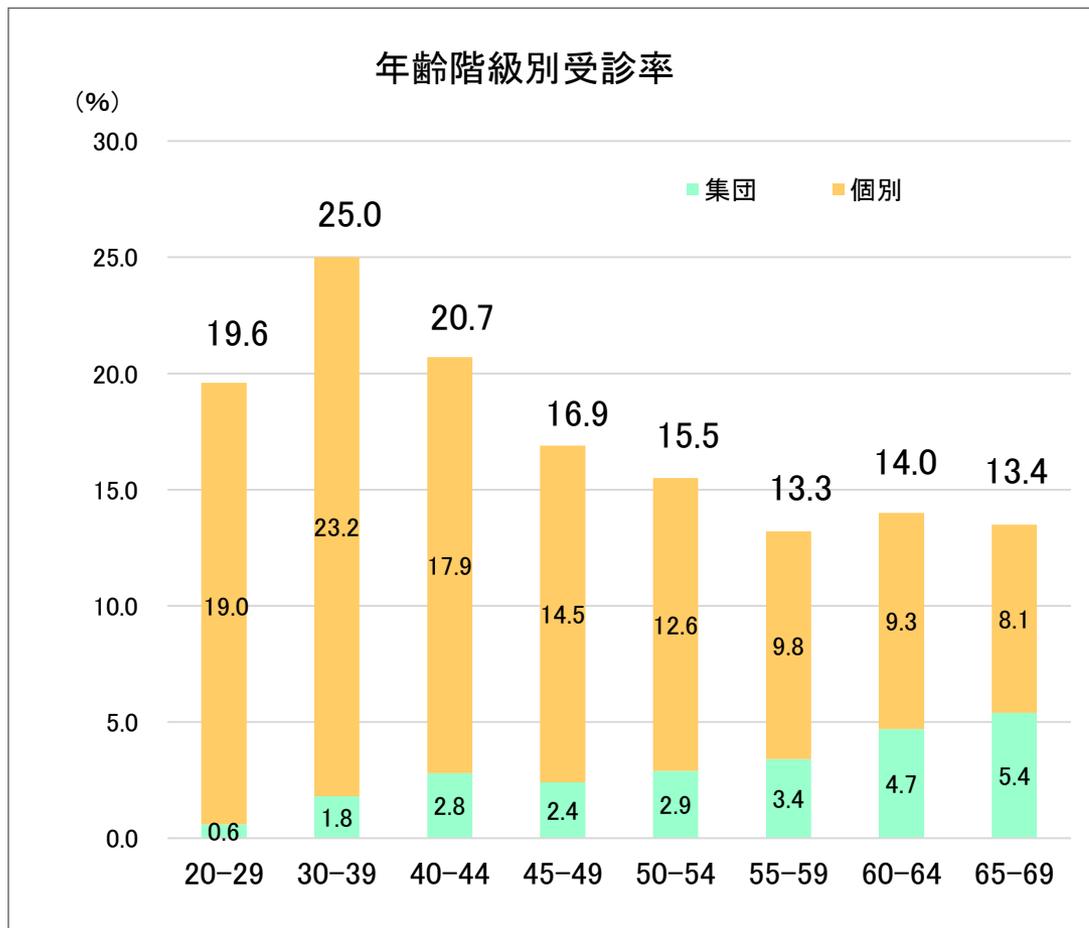
(20-69歳)	H29	H30	R1	R2	R3
集団	10,924	10,324	9,882	5,452	7,521
個別	32,164	32,416	31,625	30,731	30,359
合計	43,088	42,740	41,507	36,183	37,880

#### 【参考】

(全年齢)	H29	H30	R1	R2	R3
集団	14,448	14,017	13,756	7,774	10,851
個別	35,136	35,832	35,361	34,224	34,151
合計	49,584	49,849	49,117	41,998	45,002

## 2)令和 3年度年齢階級別受診率

▶ 全体の受診率は、30-39歳が最も高く、その後は年齢階級が高くなるにつれ、低くなる傾向が見られた。年齢階級が高くなるにつれ、集団検診では高くなり、個別検診では低くなる傾向がみられた。



年齢階級	区分	対象者数	受診者数	受診率
20-29	集団	51,485	171	0.6
	個別		4,929	19.0
	計		5,100	19.6
30-39	集団	63,815	659	1.8
	個別		7,701	23.2
	計		8,360	25.0
40-44	集団	38,515	686	2.8
	個別		3,819	17.9
	計		4,505	20.7
45-49	集団	44,421	725	2.4
	個別		3,554	14.5
	計		4,279	16.9
50-54	集団	44,316	837	2.9
	個別		3,146	12.6
	計		3,983	15.5
55-59	集団	42,549	1,019	3.4
	個別		2,326	9.8
	計		3,345	13.3
60-64	集団	47,146	1,469	4.7
	個別		2,444	9.3
	計		3,913	14.0
65-69	集団	52,806	1,955	5.4
	個別		2,440	8.1
	計		4,395	13.4

### ▶ 3.国の示す事業評価指標値

#### ● (旧)事業評価指標値

H20国立がん研究センター公表

		乳がん	子宮頸がん	大腸がん	胃がん	肺がん
精検 受診率	許容値	80%以上	70%以上	70%以上	70%以上	70%以上
	目標値	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上
要精検率(許容値)		11.0%以下	1.4%以下	7.0%以下	11.0%以下	3.0%以下
がん発見率(許容値)		0.23%以上	0.05%以上	0.13%以上	0.11%以上	0.03%以上
陽性反応適中度(許容値)		2.5%以上	4.0%以上	1.9%以上	1.0%以上	1.3%以上

# (新)事業評価指標値

第37回がん検診のあり方に関する検討会(R5.1.30)  
資料3-2より抜粋

	胃がん (エックス線)		大腸がん	肺がん (1年間隔)		乳がん (2年間隔)		子宮頸がん		
	2年間隔	1年間隔		検診以外の受診を考慮		連続受診を考慮				
対象年齢	50-69歳		40-69歳	40-69歳		40-69歳		20-69歳	20-39歳	40-69歳
算出に用いた感度*	60%以上		60%以上	50%以上		40歳代：60%以上 50歳代：70%以上 60歳以上：80%以上		65%以上		
要精検率	7.1%以下	7.0%以下	6.2%以下	2.0%以下	2.0%以下	6.8%以下	6.8%以下	2.7%以下	4.2%以下	2.0%以下
	現在の許容値 11.0%以下		7.0%以下	3.0%以下		11.0%以下		1.4%以下		
精検受診率	90%以上									
がん発見率*	0.13%以上	0.08%以上	0.16%以上	0.06%以上	0.03%以上	0.38%以上	0.29%以上	0.16%以上	0.18%以上	0.15%以上
	現在の許容値 0.11%以上		0.13%以上	0.03%以上		0.23%以上		0.05%以上		
陽性反応適中度*	1.9%以上	1.1%以上	2.6%以上	3.0%以上	1.6%以上	5.5%以上	4.3%以上	5.9%以上	4.4%以上	7.4%以上
	現在の許容値 1.0%以上		0.19%以上	1.3%以上		2.5%以上		4.0%以上		
非初回受診者の 2年連続受診者割合**						30%		40%		

CIN3以上:頸がん,AIS,CIN3

\*子宮頸がんはCIN3以上に対する値

\*\*国民生活基礎調査から算出したおおよその現状の値

子宮頸がん<sup>23</sup>指標

## 事業評価指標値の新旧比較

	(旧)指標 H20公表	(新)基準値 R5公表		
対象年齢	20歳以上(上限の記載なし)	20-69歳	20-39歳	40-69歳
要精検率	許容値1.4%以下	2.7%以下	4.2%以下	2.0%以下
精検受診率	目標値90%以上 許容値70%以上	90%以上		
がん発見率	許容値0.05%以上	0.16%以上	0.18%以上	0.15%以上
陽性反応 適中度	許容値4.0%以上	5.9%以上	4.4%以上	7.4%以上
【参考】 がん発見率・ 陽性反応適中度 を算出する分子	頸がん	CIN3以上 (頸がん・AIS・CIN3)		

# 4. 令和2年度子宮頸がん検診成績 (20~69歳)

## 1) 令和2年度子宮頸がん検診成績

新基準値 90% ↑

5.9% ↑ 0.16% ↑

2.7% ↓

区分	受診者数 A	要精検者数 B	要精検率 B/A	精検受診						精検結果別人数										陽性反応適中度 (G+I+J)/B	がん発見率 (G+I+J)/A	I A期がん割合 H/G	
				あり C	精検受診率 C/B	なし D	精検未受診率 D/B	未把握 E	精検未把握率 E/B	異常なし F	がん G	I A期がん H	AIS I	CIN3 J	CIN2 K	CIN2 L	CIN3 M	CIN1 N	がん疑い及び 未確定 O				がん以外の 疾患 P
長崎県	集団	5,452	76	1.4	68	89.5	1	1.3	7	9.2	14	2	1	0	5	9	0	24	10	4	9.21	0.13	50.0
	個別	30,484	1,130	3.7	944	83.5	61	5.4	125	11.1	262	21	3	3	85	95	10	297	95	76	9.65	0.36	14.3
	合計	35,936	1,206	3.4	1,012	83.9	62	5.1	132	10.9	276	23	4	3	90	104	10	321	105	80	9.62	0.32	17.4

### 【参考】

70歳以上	集団	2,322	9	0.4	9	100.0	0	0.0	0	0.0	2	0	0	0	0	2	2	3	0	0	0.00	0.00	0.0
	個別	3,494	43	1.2	35	81.4	6	14.0	2	4.7	19	3	0	0	0	1	2	5	2	3	6.98	0.09	0.0
	合計	5,816	52	0.9	44	84.6	6	11.5	2	3.8	21	3	0	0	0	3	4	8	2	3	5.77	0.05	0.0

※陽性反応適中度・がん発見率は、頸がん・AIS・CIN3の合計で算定

地域保健・健康増進報告(厚労省)

## 2)令和2年度子宮頸がん検診成績

(20~39歳,40~69歳)

20~39歳

新基準値

90%↑

4.4%↑ 0.18%↑

4.2%↓

区分	受診者数 A	要精検者数 B	要精検率 B/A	精検受診						精検結果別人数										陽性反応適中度 (G+I+J)/B	がん発見率 (G+H)/A	I A期がん割合 H/G	
				あり C	精検受診率 C/B	なし D	精検未受診率 D/B	未把握 E	精検未把握率 E/B	異常なし F	がん G	I A期がん H	AIS I	CIN3 J	CIN2 K	CIN2 L	CIN3 M	CIN1 N	がん疑い及び 未確定 O				がん以外の 疾患 P
長崎県	集団	695	23	3.3	21	91.3	0	0.0	2	8.7	2	1	1	0	0	4	0	10	4	0	4.35	0.14	100.0
	個別	13,651	689	5.0	559	81.1	40	5.8	90	13.1	143	6	2	2	48	66	7	181	65	41	8.13	0.41	33.3
	合計	14,346	712	5.0	580	81.5	40	5.6	92	12.9	145	7	3	2	48	70	7	191	69	41	8.01	0.40	42.9

40~69歳

新基準値

90%↑

7.4%↑ 0.15%↑

2.0%↓

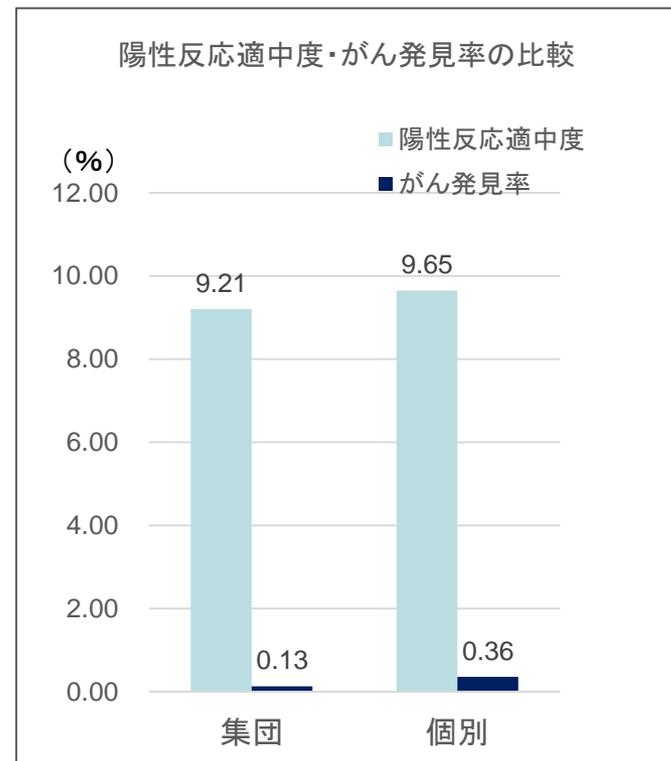
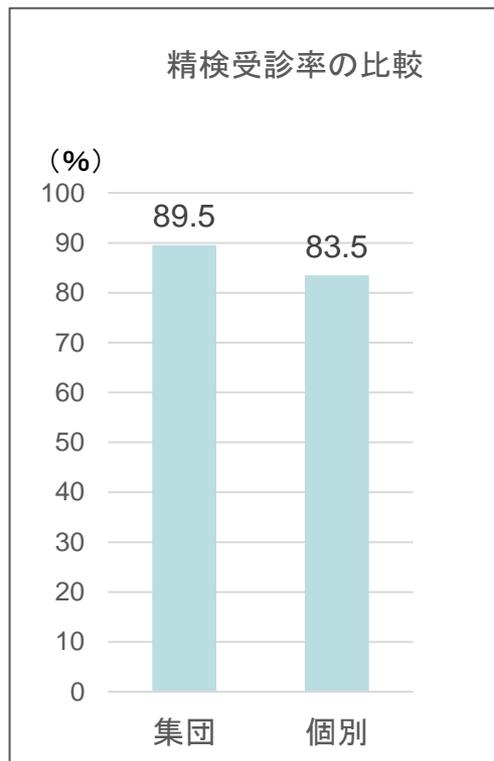
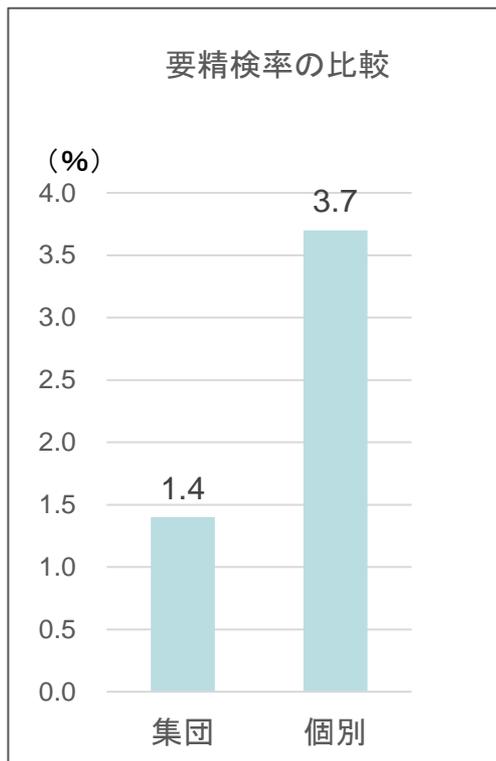
区分	受診者数 A	要精検者数 B	要精検率 B/A	精検受診						精検結果別人数										陽性反応適中度 (G+I+J)/B	がん発見率 (G+H)/A	I A期がん割合 H/G	
				あり C	精検受診率 C/B	なし D	精検未受診率 D/B	未把握 E	精検未把握率 E/B	異常なし F	がん G	I A期がん H	AIS I	CIN3 J	CIN2 K	CIN2 L	CIN3 M	CIN1 N	がん疑い及び 未確定 O				がん以外の 疾患 P
長崎県	集団	4,757	53	1.1	47	88.7	1	1.9	5	9.4	12	1	0	0	5	5	0	14	6	4	11.32	0.13	0.0
	個別	16,833	441	2.6	385	87.3	21	4.8	35	7.9	119	15	1	1	37	29	3	116	30	35	12.02	0.31	6.7
	合計	21,590	494	2.3	432	87.4	22	4.5	40	8.1	131	16	1	1	42	34	3	130	36	39	11.94	0.27	6.3

※陽性反応適中度・がん発見率は、頸がん・AIS・CIN3の合計で算定

地域保健・健康増進報告(厚労省)

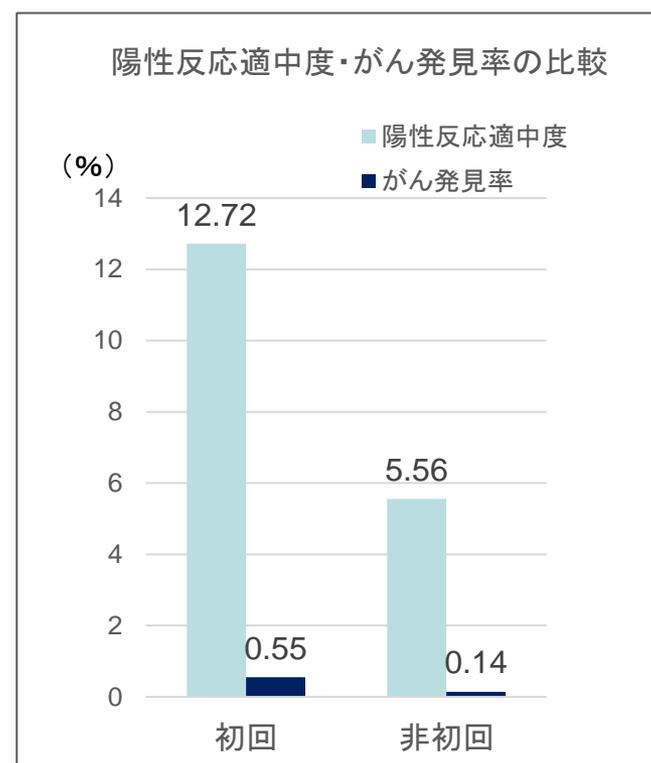
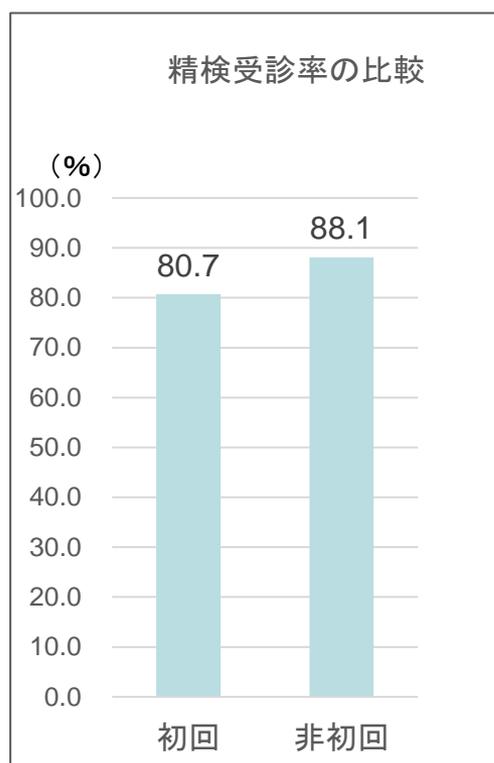
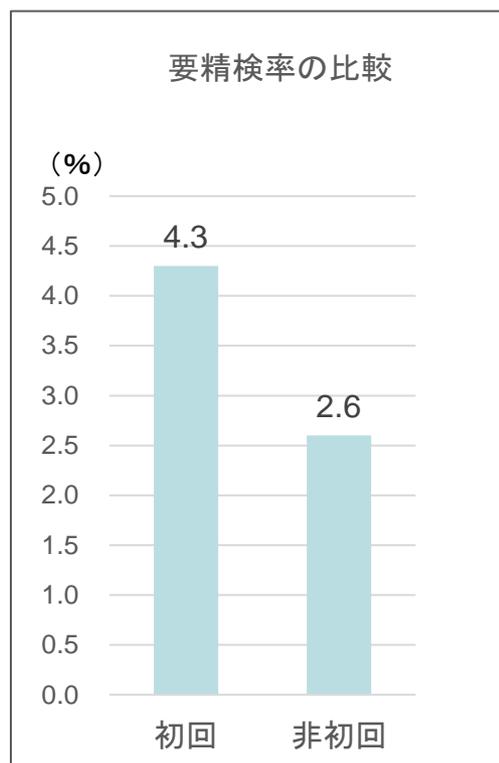
### 3)プロセス指標の集団と個別の比較(20～69歳)

- ▶ 要精検率は、集団より個別が高く、精検受診率は個別より集団が若干高かった。  
がん発見率は、個別が高かった。



#### 4)プロセス指標の受診歴別の比較(20~69歳)

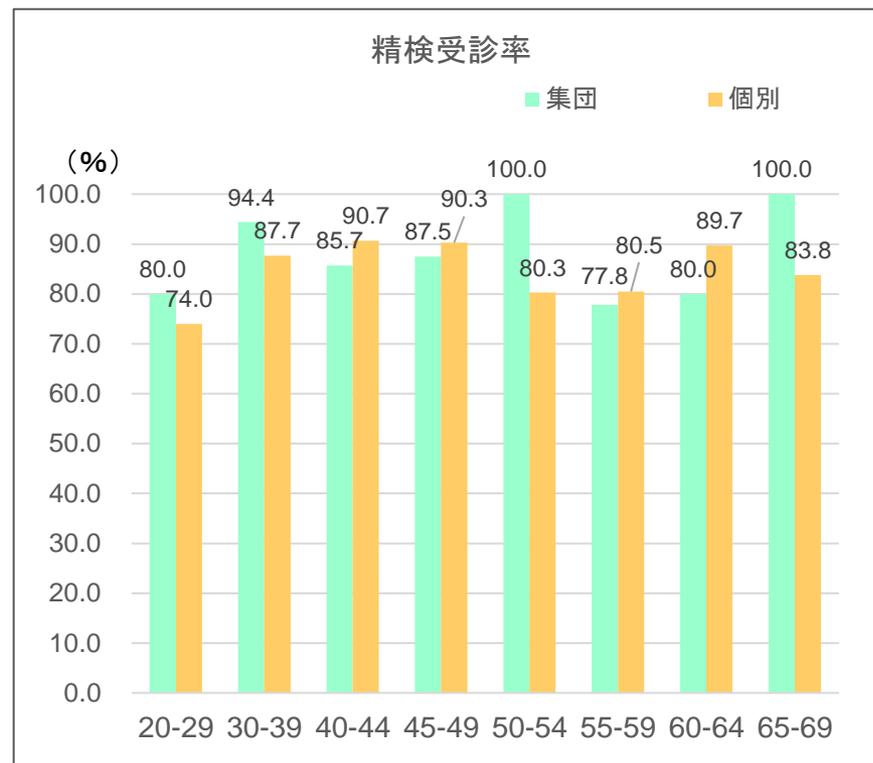
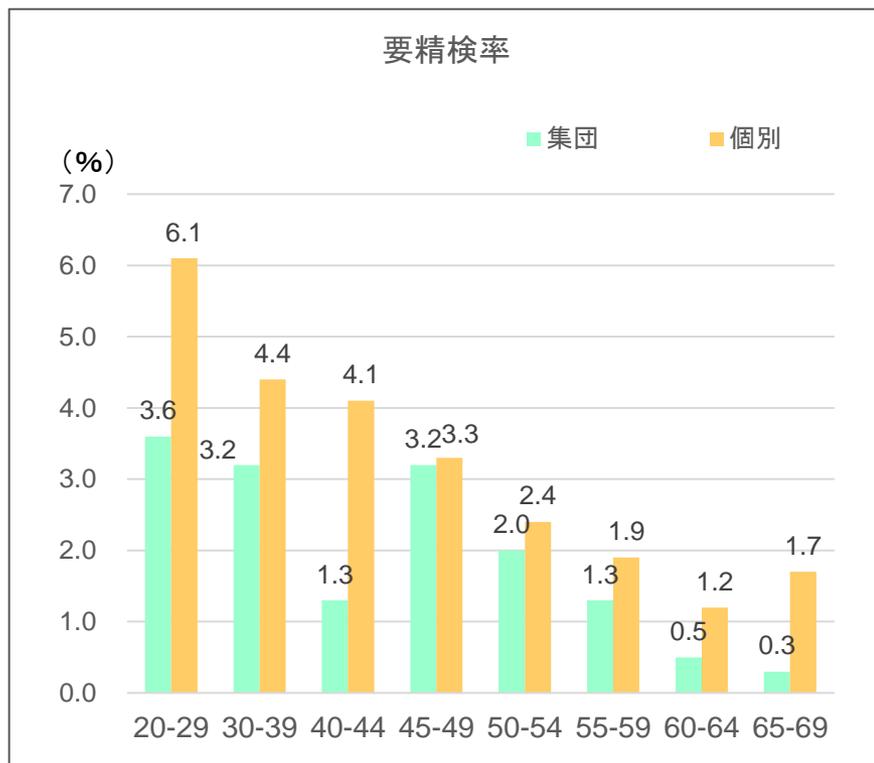
- ▶ 要精検率は非初回より初回が高かった。精検受診率は初回より非初回が高かった。陽性反応適中度、がん発見率は非初回よりも初回が高かった。



## 5)年齢階級別 の比較

(要精検率・精検受診率)

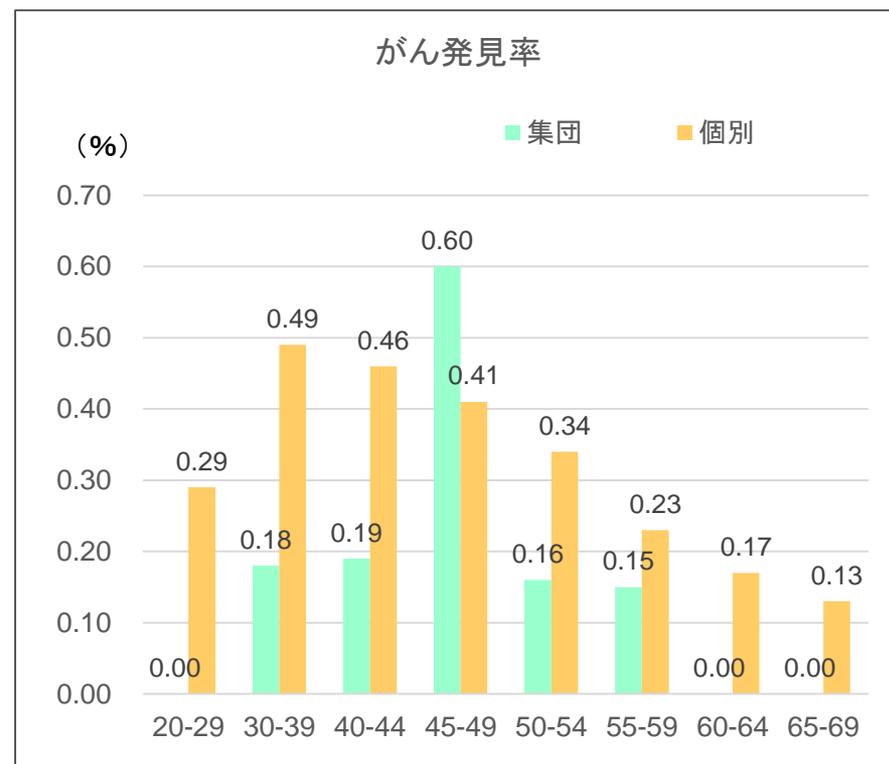
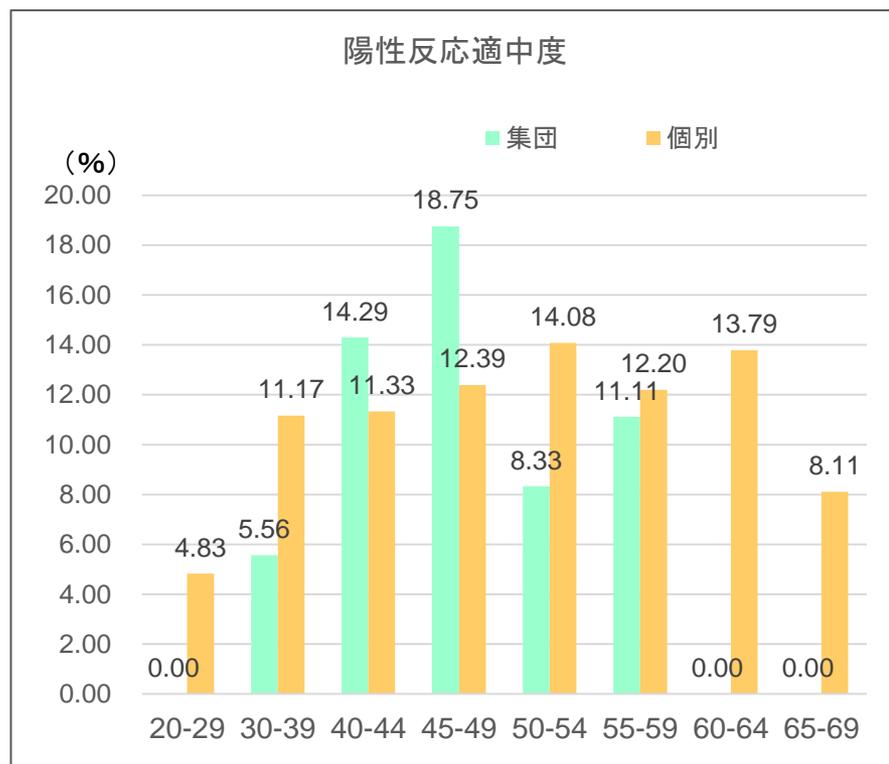
- ▶ 要精検率は、集団・個別ともに、年齢が上昇するにつれて低くなる傾向がみられた。  
精検受診率は、ばらつきが多かった。



## 6)年齢階級別 の比較

(陽性反応適中度・がん発見率)

▶ 陽性反応適中度とがん発見率は、ばらつきが大きかった。  
(発見がん数が少なく、比較するのは難しい)



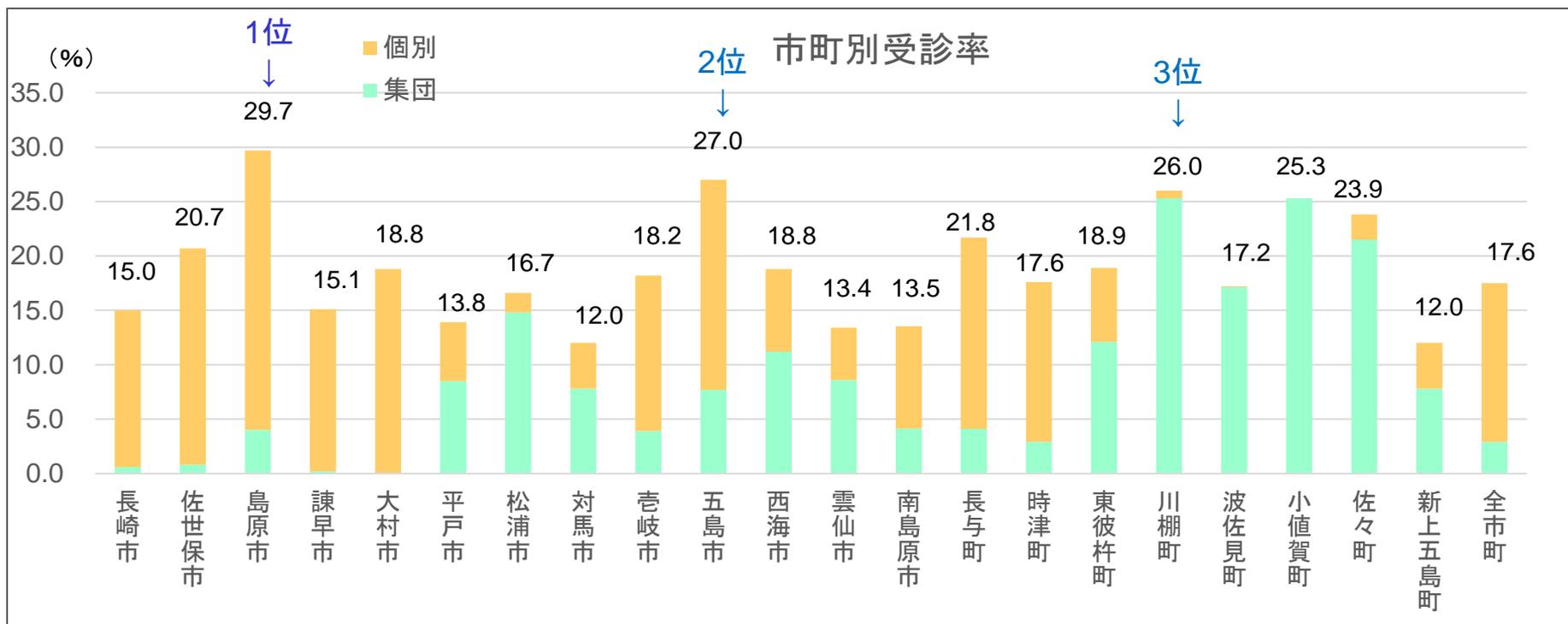
# 5. 子宮頸がん検診市町別成績

## 1) 令和3年度市町別受診率

- ・受診率 = (R3年度受診者 + R2年度受診者 - 2年連続受診者) / 対象者数
- ・目的: がん検診の対象者のうち、実際の受診者の割合。受診率は高いことが望ましい。
- ・目標値: 50%以上 (第3期がん計画)

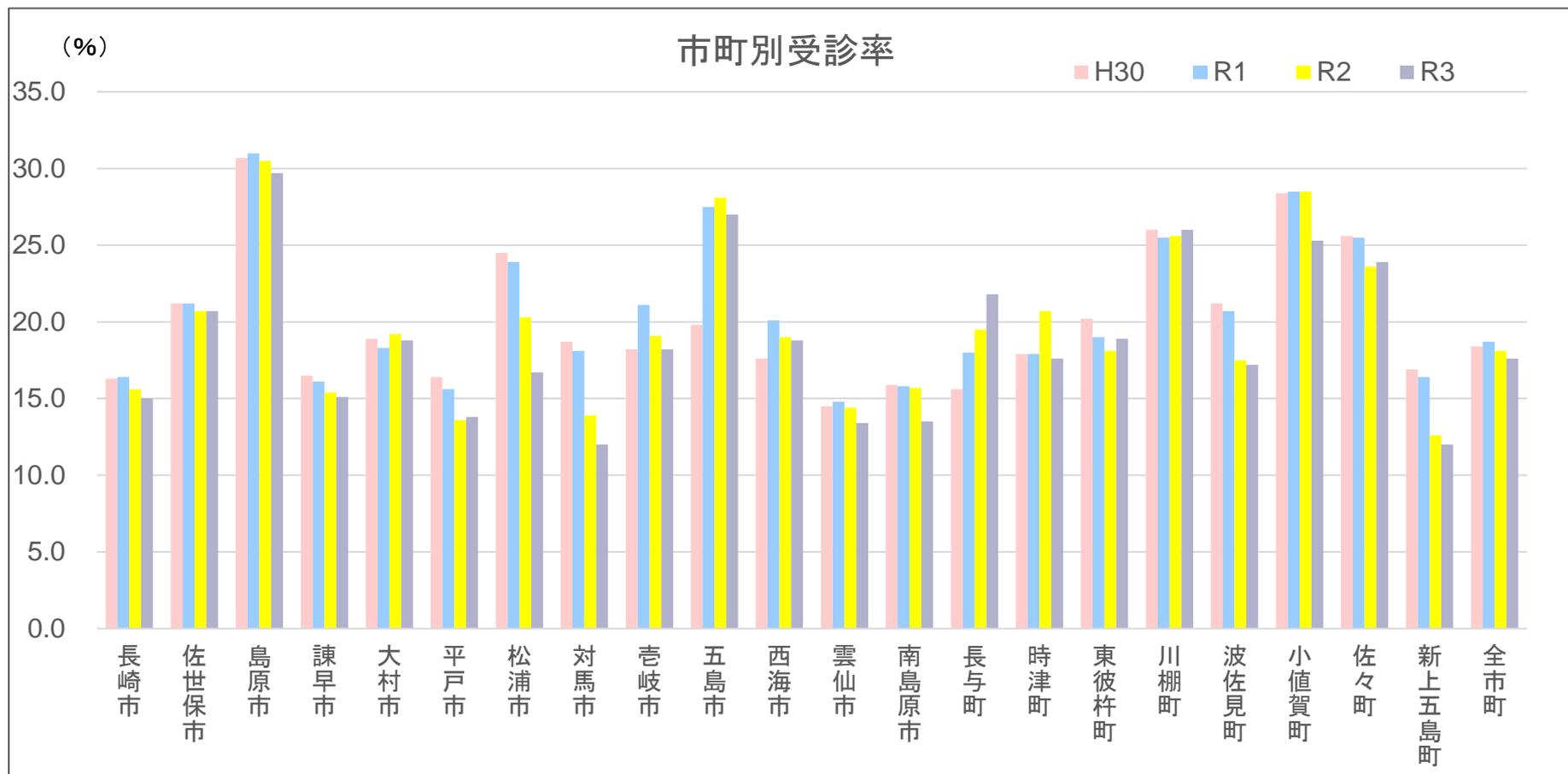
- 低い場合
- ・考えられる原因  
受診勧奨が不十分

このデータは市町が地域のがん検診として実施した分のみ計上。  
職域における受診者数は含まれていないことから、単純に比較することはできない。目標値を満たしている市町はなかった。



## 2) 年度別市町別受診率

- 多くの市町で低下傾向にある
- 4年連続上昇した市町:長与町



### 3)令和 2年度要精検率

- ・要精検者数／検診受診者数
- ・目的:精密検査の対象者が適切に選ばれているか

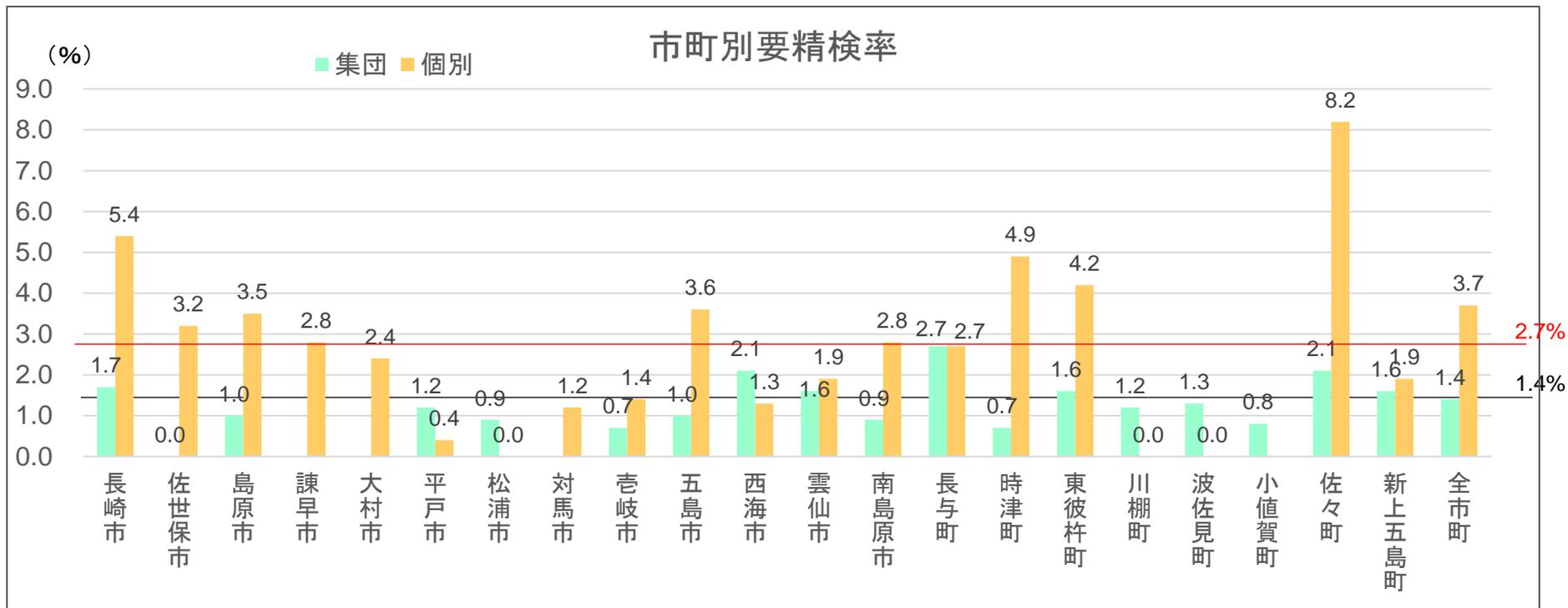
(旧)・許容値: 1.4%以下

↓

(新)・基準値: 2.7%以下[20-69歳]

#### ●高い場合

- ・考えられる原因
  - 要精検者の計上は適切か。
  - 各検診機関の要精検の判定基準は適切か。
  - 有症状者が、がん検診を受診していないか。
- ・要精検率は、(旧)許容値で見ると満たしている市町が少なかったが、(新)基準値で見ると満たしている市町が増えた。



## 4)令和 2年度精検受診率

- ・精検受診者数／要精検者数
- ・目的:要精検者が精密検査を受診したか
- ・高いほど良い。(精検受診率が100%近くなければ、  
発見率を正しく評価できない)

(旧)・目標値:90%以上 ・許容値:70%以上

↓

(新)・基準値:90%以上[20-69歳]

### ●低い場合

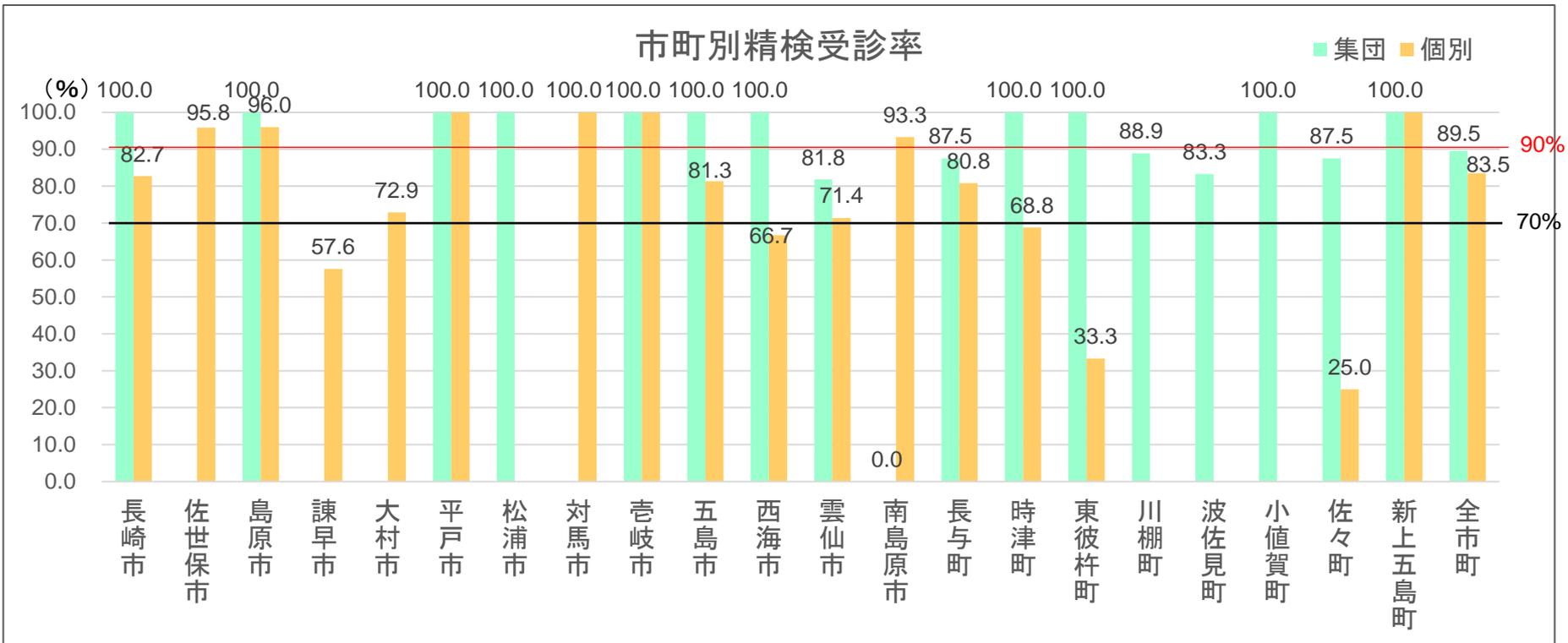
#### ・考えられる原因

精密検査の受診勧奨が不十分。

精検受診の有無を市町が確実に把握できる体制が不十分。

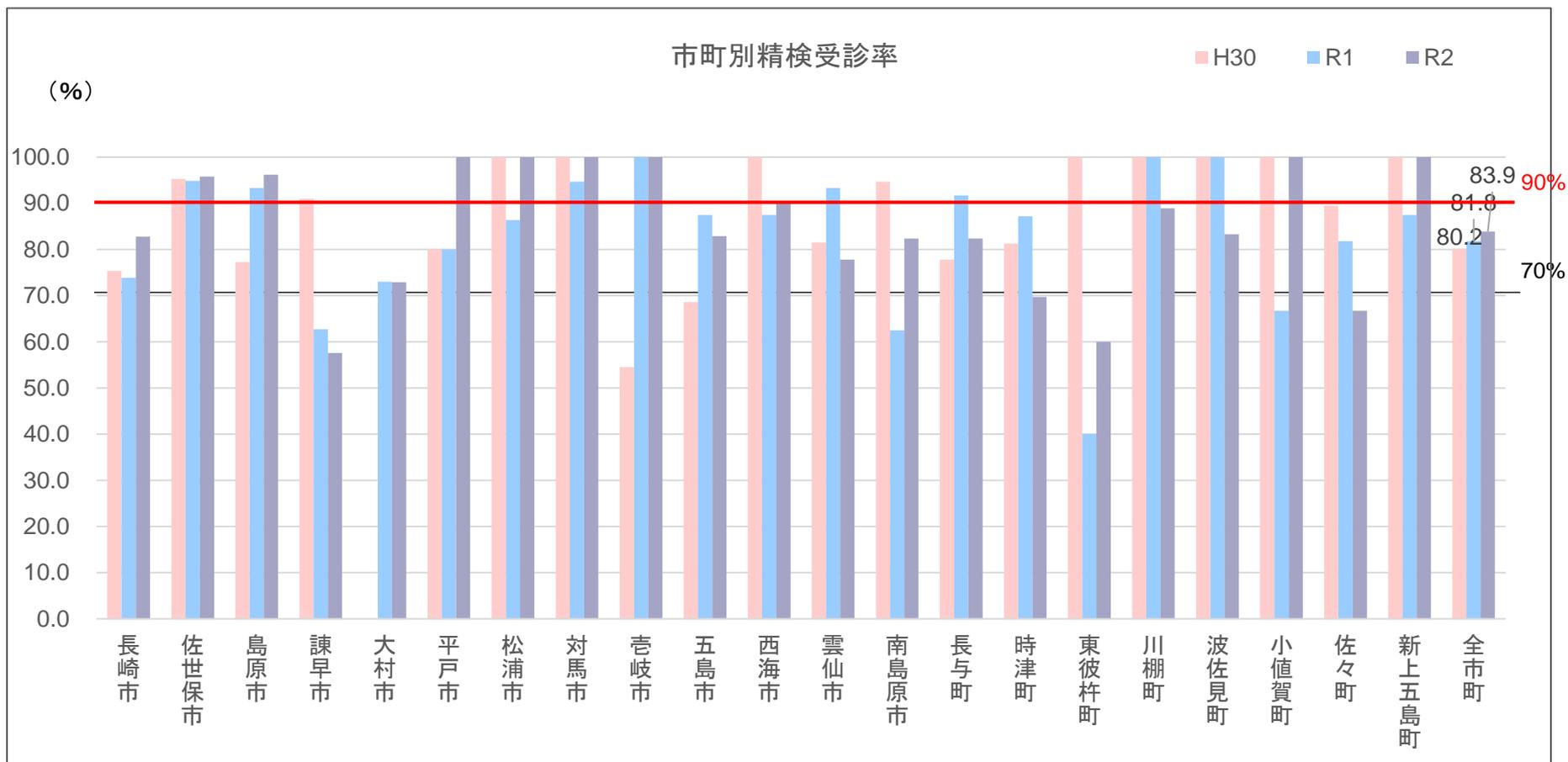
人口規模が異なるので単純に比較できないが、集団も個別も(新)基準値90%を超えていたのは、島原市、平戸市、壱岐市、新上五島町。

同様に、精検受診率がどちらか一方しかなく(検診形態が1つのみ、もしくは要精検者がゼロの場合など)90%を超えていたのは、佐世保市、松浦市、対馬市、小値賀町。



## 5) 年度別精検受診率

- 3年連続90%以上の市町:佐世保市・対馬市
- 3年連続70%以下の市町:なし



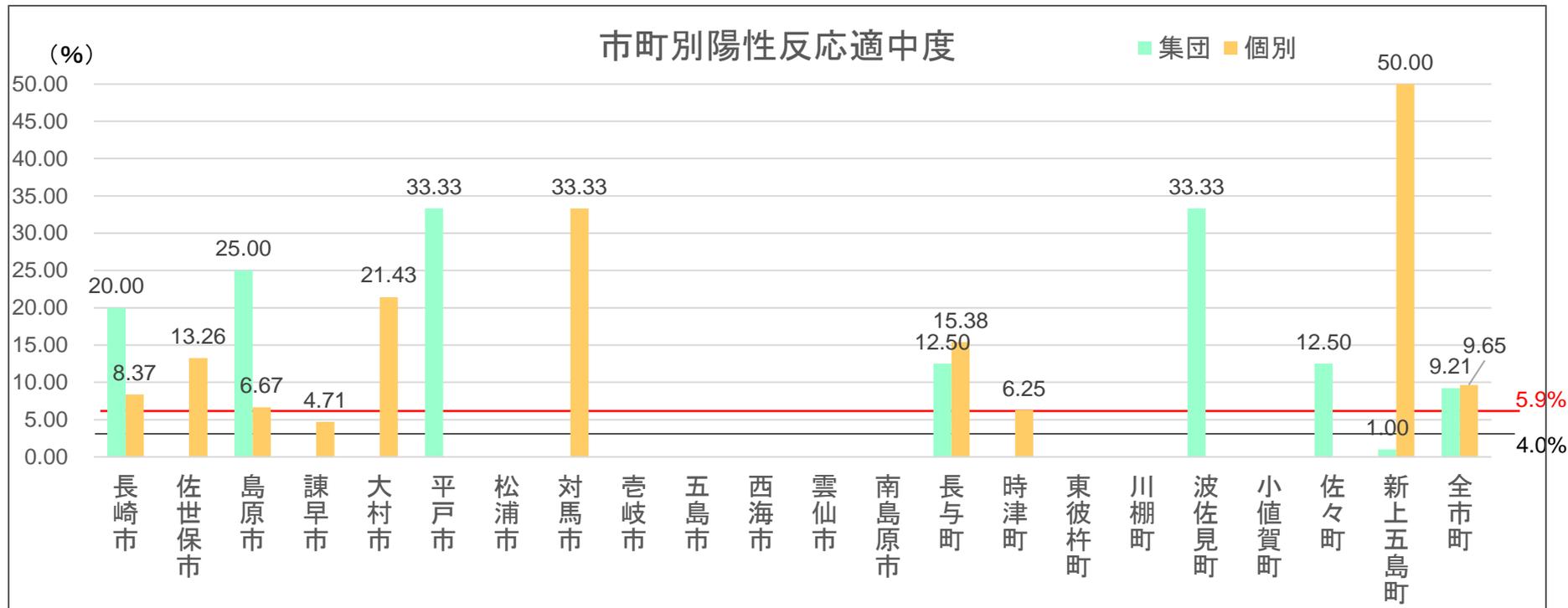
## 6)令和 2年度陽性反応適中度

- ・がんであった方の数／要精検者数
- ・目的: 検診で効率よくがんを発見されたかを測る

(旧)・許容値: 4.0%以上 (H20に設定)  
 0期(上皮内癌を)発見がんを含むときに  
 ↓  
 設定された指標

(新)・基準値: 5.9%以上 [20-69歳]  
 算出する際、分子を「頸がん+AIS+CIN3」とする

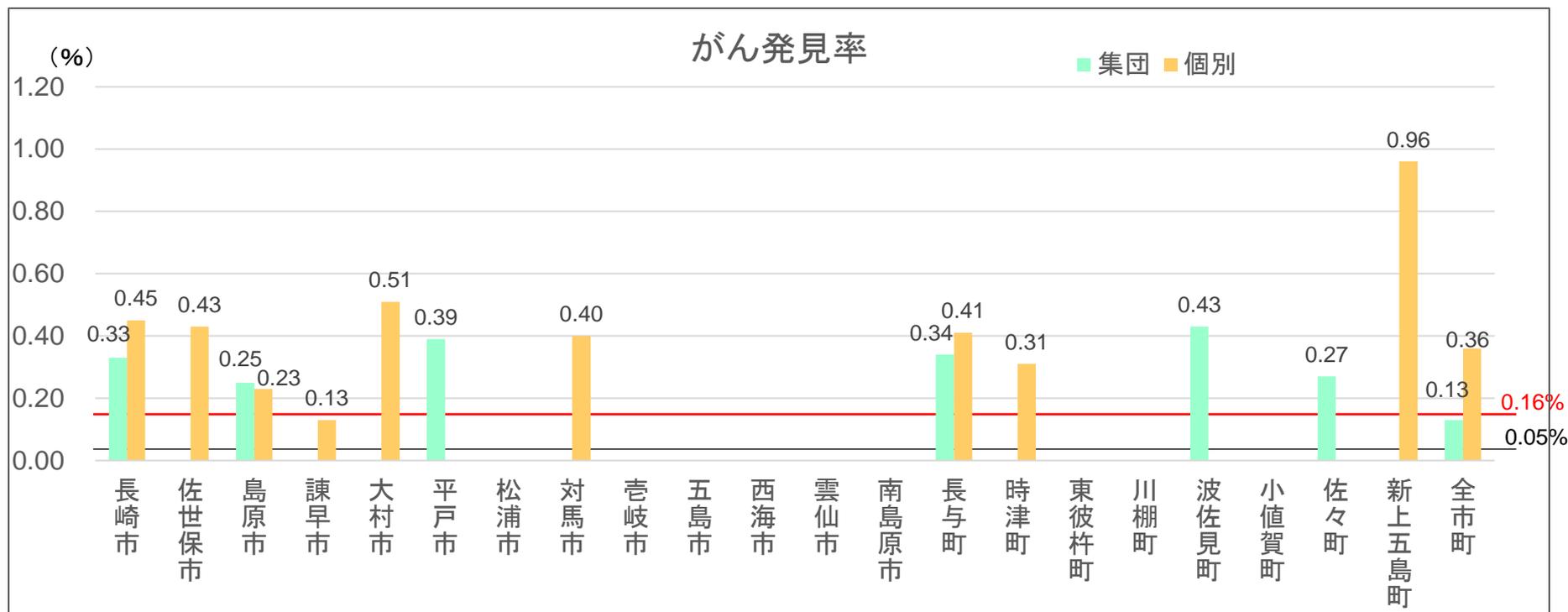
人口規模が異なるので、市町ごとに評価することは困難であるが、諫早市と新上五島町を除き、おおむね各市町は(新)基準値を満たしていた。  
 県全体では集団も個別も(新)基準値を満たしていた。



## 7)令和 2年度がん発見率

- ・がんであった方の数／検診受診者数
- ・目的:その検診システムにおいて、適切な頻度でがんを発見できたか
- (旧)・許容値:0.05%以上(H20に設定)  
0期(上皮内癌を)発見がんを含むときに  
↓  
設定された指標
- (新)・基準値0.16%以上〔20-69歳〕  
算出する際、分子を「頸がん+AIS+CIN3」とする

人口規模が異なるので、市町ごとに評価することは困難であるが、諫早市を除き、おおむね各市町は(新)基準値を満たしていた。県全体では集団が新基準値を満たしていなかった。



## 8)R2年度 偶発症

▶ 長崎県では偶発症は確認されていません。

### 【検診時もしくは検診後】

区分	全国		長崎県	
	偶発症確認	死亡数 (再掲)	偶発症確認	死亡数 (再掲)
集団	1	...	-	-
個別	7	...	-	-
合計	8	...	-	-

### 【精密検査時 もしくは 精密検査後】

区分	全国		長崎県	
	偶発症確認	死亡数 (再掲)	偶発症確認	死亡数 (再掲)
集団	...	...	-	-
個別	8	...	-	-
合計	8	...	-	-

## 6.まとめ

### 受診率、精検受診率について

- ▶ 受診率で目標値を満たしている市町はなかった。  
精検受診率は、集団個別ともに(新)基準値90%を満たしていなかった。  
精検受診率を向上させるためには、精密検査の受診勧奨を行うことに加えて、精検医療機関からの情報を、市町が適切に把握できるよう体制を整えることが必要である。

### 要精検率について

- ▶ 各市町、検診形態(集団、個別)によりばらつきがあり、全体的に個別検診の要精検率が高い傾向にあった。県全体としては個別検診が(新)基準値を満たしていなかった。

### がん発見率、陽性反応適中度について

- ▶ 人口規模が異なるので、市町ごとに評価することは困難であるが、おおむね各市町は(新)基準値を満たしていた。  
がん発見率は、集団が(新)基準値を満たしていなかったが、陽性反応適中度では、集団も個別も満たしていた。